

4 若松区

4-1 地域の概況と課題

(1) 若松区の概況

① まちの成り立ち、自然状況

- ・本市北西部に位置する若松区は、かつての筑豊炭田の石炭積出港として発展し、洞海湾から響灘に至る臨海部の産業拠点と、その背後の住宅地で構成される市街地を形成しました。
- ・区内中央に石峰山系の豊かな自然を配し、その西端部には頓田貯水池やグリーンパークなど自然を活かした市民のレクリエーション空間が整備されています。
- ・石峰山系の南東麓に、石炭積出港由来の歴史的な建築群も残る街なみを形成し、また、区内西部には、住宅団地や学術・研究ゾーン等の新たな市街地を形成しています。
- ・区内北部の響灘地区は、本市有数の港湾・物流機能を活かして新たな産業拠点を形成するとともに、脇田地区や若松北海岸と連携した臨海部のレクリエーション拠点としての役割も担っています。

② 生活圏、交通の状況

- ・若松区の日常生活圏※は、概ね、地域拠点である若松地区と学術研究都市地区を中心とする2つの圏域に分類されます。このうち、若松地区は小倉都心地区との結びつきも強く、一方、学術研究都市地区は八幡西区折尾地区との結びつきが強くなっています。

※日常生活圏とは、買い物・通勤・通院などで行動する範囲

- ・広域道路網としては、区内南縁を国道199号と県道北九州芦屋線が、北縁を国道495号が東西に並行して走っており、若戸大橋や若戸トンネルを介して戸畑・小倉方面へ繋がっています。
- ・公共交通としては、JR筑豊本線が若松駅を起点として折尾駅まで連絡しており、区内には4箇所の駅があります。また、JR筑豊本線と並行する国道199号、及び国道・県道等の幹線道路沿いに路線バスが運行しています。戸畑方面には若戸大橋を活用した路線バスの他に、若戸渡船も運行しています。また、若戸大橋・若戸トンネルの無料化により、さらなるアクセス向上が期待されています。

③ 人口動向・構成

- ・人口は、平成27年現在8.3万人で、全市の8.6%を占めています。
- ・平成22年から5年間の減少率は2.7%で、平成52年には6.5万人まで減少すると予想されています。
- ・高齢化率は30.1%で全市平均(28.8%)並みですが、平成52年には38.2%まで増加すると予想されています。
- ・可住地の人口密度は15.1人/haと市内で最も低く、全市平均(32.5人/ha)の半分程度となっています。

	H22人口※	H27人口※				H27 高齢化率(%)	H27/H22	
		総数	15歳未満人口	15~64歳人口	65歳以上人口		人口増減数	人口増減率(%)
北九州市	976,846	961,286	119,448	549,397	277,120	28.8%	-15,560	-1.59
北九州市 若松区	85,167	82,844	10,733	47,023	24,896	30.1%	-2,323	-2.73
	面積(ha)	可住地面積(ha)	H27可住地 人口密度	H27 世帯数	H27 1世帯あたり人			
北九州市	49,195	29,609	32.47	426,325	2.25			
北九州市 若松区	7,131	5,484	15.11	33,692	2.46			
	H52将来人口							
	総数	15歳未満人口	15~64歳人口	65歳以上人口	高齢化率(%)			
北九州市	784,162	79,211	409,013	295,938	37.7%			
北九州市 若松区	64,946	6,318	33,842	24,786	38.2%			

※H22・H27 人口：国勢調査

※H52 将来人口：

国立社会保障・人口問題研究所

『日本の地域別将来推計人口

(平成25年3月推計)』による推計値

④土地利用

- ・区中央部の石峰山系の南東麓から区西部にかけて市街地が形成され、区面積の約50%が市街化区域となっています。
- ・JR若松駅周辺地区及び学術研究都市地区に商業地が形成され、その背後に住宅地が形成されています。中でも特にJR若松駅周辺の山麓には斜面住宅地が広く分布しています。
- ・洞海湾から響灘にかけての臨海部に工業地が形成され、特に響灘地区は、本市有数の港湾・物流拠点として整備され、洋上風力発電施設や環境関連産業などが立地して、新たな産業拠点を形成しつつあります。

(2)若松区の特性とまちづくりの課題

●臨海工業地との連携による魅力的なまちづくりの課題

- 若松らしい歴史・文化遺産を大切にしながら継承し、若松地域拠点の中心市街地の活性化を図るとともに、その周辺への定住促進を進める必要があります。
- 響灘地区や北九州学術研究都市における次世代産業拠点の形成にともなう新たな居住者を、人口減少が進んでいる中心市街地やその周辺に積極的に取り込むことが必要です。
- 公共交通の主要幹線軸である若松から折尾方面を結ぶ区間について、乗り継ぎ利便性向上などの機能強化、利用促進が必要です。
- 戸畑・小倉方面への交通利便性の強化が必要です。
- 響灘緑地や若松北海岸、脇田地区との連携により、多くの市民の憩いの場として観光・レクリエーション機能の充実が必要です。
- 防災上、居住環境上の課題を抱える斜面地住宅については、居住のあり方について検討を進める必要があります。

●本市をリードする学術研究拠点としてのまちづくりの課題

- 北九州学術研究都市を区の新たな地域拠点として、次世代産業拠点にふさわしい機能の充実とともに、自然と調和した良好な居住環境の形成が必要です。
- 公共交通の主要幹線軸である学術研究都市方面から折尾を結ぶ区間について、乗り継ぎ利便性向上などの機能強化、利用促進が必要です。

4-2 まちづくりの目標と方針

(1)まちづくりの目標

若松区の課題を踏まえて、区の将来像を描き、まちづくりの目標を定めます。

【目標】

- ◆街なかに多くの人々が住み、地域で支え合って生き生きと暮らせるまちをつくる
- ◆多様な産業の集積がにぎわいと活力を生み出すまちをつくる
- ◆歴史や文化を継承しながら新しい魅力を創造していくまちをつくる
- ◆豊かな自然や農業・漁業が守られ親しまれるまちをつくる

(2)まちづくりの方針

まちづくりを構成する主な分野ごとに方針を定めます。

●土地利用に関する方針

若松地区の再生に向けた中心市街地における高度利用をはじめ、学術研究都市地区の教育・研究機能と居住機能が調和した土地利用を進めていきます。

- ① 街なかにおいて、生活利便施設や住宅を中心とする土地の有効利用を促進し、街なか居住を進めます。
- ② 臨海部において、港湾機能の強化や新産業の立地を進めます。
- ③ 周辺市街地において、長期的な観点から、街なかの取り組みと連動した斜面地住宅等のあり方について検討を進めます。
- ④ 学術研究都市地区では引き続き、良質な居住環境の形成を進めます。

●交通に関する方針

日常交通と産業交通の円滑化や歩いて楽しいまちづくりなど、総合的に交通環境を向上させるため、身近な道路環境の整備、公共交通の充実などを進めていきます。

- ① 他区との連携強化や各拠点のアクセス性向上に向けた取り組みを進めます。
- ② 公共交通軸を中心とした公共交通の利便性の向上と利用促進を図ります。

●観光や美しい景観による魅力あるまちづくりに関する方針

新しい産業の場として、多彩で豊かな魅力をもつまちづくりを進めていきます。

- ① 若松の歴史や文化など、地域の資源を保全・活用しながら魅力あるまちづくりを進めます。
- ② 自然や産業、暮らしと調和した観光の充実を図ります。

●都市環境・自然的景観・公園緑地に関する方針

自然的環境や歴史や文化の保全、環境負荷の低減、身近な生活環境の改善、快適な環境の形成など、総合的で先進的な、世界の環境首都にふさわしいまちづくりを進めていきます。

- ① 豊かな山や海の自然的環境や生態系の保全・再生を図り、うるおい豊かな環境の形成を進めます。
- ② 暮らしや産業から生じる環境負荷の軽減や公害の防止を図ります。

●安全・安心なまちづくりに関する方針

若松区における先進的な保健・医療・福祉・教育と地域の連携による活動のさらなる充実やネットワークの広がりを促進するとともに、子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域で、安心して健康に暮らすことができるまちづくりを進めていきます。

- ① 風水害に備えて地域住民との協働による防災対策を進めます。
- ② 超高齢社会に備えたまちづくりを進めます。

4-3 目標とする都市の構造

